

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム エル
(ユニット名)	2階
所在地 (県・市町村名)	奈良県桜井市
記入者名 (管理者)	松野 壽美子
記入日	平成 19年 9月 10日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑
取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>地域密着型サービスであることをスタッフにカンファレンスの度に説明し地域との関りを大切にしています。「あなたを大切にいたします。」をモットーに尊厳や その人らしく 穏やかで安心できるような認知症が軽減できるように介護する事 地域との関りを大切にすることを理念としています。</p>	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>毎月カンファレンスで理念を読み上げています。スタッフが出勤時目に付くように 1階事務所に理念と法人の介護方針を貼っています。</p>	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>来客の方によくわかるように玄関を開けてすぐに目に付くように「あなたを大切にいたします。」と掲げています。運営推進会議では毎回運営理念や活動と地域の中での関りを話しています。開設時老人会の方々を中心に説明会をしました。7月の夏祭りには施設を開放し地域の方やボランティアの方々と交流することができました。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>散歩に毎日行くので挨拶やお話しをしています。雑巾や古着を頂いたり 孫と話しに来られたり 犬の散歩に立ち寄って話したりしています。近所の方から話してこられます。近くの野菜を売ってるビニールハウスで散歩のついでに買い物をしておやつや食材にしています。</p>	
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>自治会の活動に参加している。南小学校がそばにあるので「ナボの家」として避難場所になっています。夏祭りには大勢の地域の方々が遊びにこられました。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の方々より認知症の相談を受けたりしています。運営推進会議では毎回活動報告以外で勉強会もしており、地域の方々には介護保険や認知症の対応を学んでいます。今年の夏には南小の新任ボランティアをうけています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	法人の全体会議で外部評価について理解してもらい事業所では前回の外部評価の改善をすすめてきました。カンファレンスでスタッフ全員と話し合い自己点検の機会としての取り組みをその都度すすめています。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で活動報告や認知症状の変化など話しています。環境面で外灯 犬の糞の始末や草のことなど自治会の方々へ改善に向け話しています。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	包括支援センターの方が運営推進会議に参加して頂いています。また たよりを掲示したり市の行事に参加したりしています。桜井市には事業所での報告を頻回にして連携を図っています。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	入居者に成年後見制度を利用している方が居られたので勉強会をして知識をスタッフ全員にもってもらった。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人の勉強会をして周知徹底しました。事業所のカンファレンスでは言葉の虐待について詳細な言葉の内容まで取り上げてスタッフが認識をもてるようにしています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居時は家族様と時間をとって読み合わせをして納得の上契約しています。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関に苦情・ご意見箱を設置しています。スタッフは関りの中での利用者様の不満はすぐに管理者に伝えていきます。また気づき連絡ノートに書いて統一した対処するようにしています。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>たよりの発行や家族会で家族様に暮らしぶりを話しています。個々には料金の支払いに来所された時は必ず利用者様の様子をお伝えしています。状況的に知らせないといけないことは電話で話したりしています。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>来所持の苦情は苦情届け用紙に記入し検証して改善方法を家族様に理解して頂きスタッフ全員が認識できるようにしてその都度対応しています。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>施設長は法人の全体会議の場でスタッフに意見を求めて直接話しを聞かれていました。事業所では毎月のカンファレンスでスタッフの意見が言えるような場にはしています。スタッフは全員 食事 感染環境 レク 身体拘束予防 事故防止 勉強会の委員になってもらい施設の運営に関っています。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>イベントやドライブなど柔軟に対応している。入浴時間や自由な生活支援の為 その日は遅い時間での出勤にしたりすすめています。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>新しいスタッフは利用者一人一人にきちんと挨拶や紹介をしています。又グループホームの方針や理念 利用者様の状況や対応について話しています。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の代表(施設長)は法人の勉強会をバックアップし講師等支援しておられます。研修に対する調整等しておられます。事業所としては月1回の勉強会で持ち回りでスタッフが学びあう機会をもっています。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設長代理が近くのグループホーム小規模多機能の方々と交流を法人のスタッフや利用者様と共に活動参加しています。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	休憩室があり昼休みもきちんととってもらってスタッフ間の交流がもてるようにしています。中堅のスタッフが悩みを聞けるような関りをもっています。事業所として年末に忘年会をしたり今回夏祭りで慰労会をして楽しんだりスタッフ間が仲良く仕事ができるような配慮はしています。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	いろんな部分でスタッフが主体的に動いてもらうように任しています。リーダーがユニットをまとめて日常の業務をしています。夏祭りも自分たちでイベント内容や準備をしてスタッフで作っていました。勉強会もスタッフに持ち回りで知識として調べて発表しています。施設運営は委員会活動としてレクや食事などスタッフの分担で任せています。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居の前に体験で少しずつ他利用者との交流をしていただいたり センター方式のアセスメントを記入してもらったりしています。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居相談に来られると 充分にお話を聞いています。事業所はグループホームであることや理念や体制などお話しして理解していただいています。今すぐ必要なサービスは状況に併せて支援をしています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	認知症の相談でグループホームに入居が出来ない場合は包括支援センターの方や居宅支援事業所との連携を図り早急な対応相談をすすめています。電話や来所での相談がよくあります。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	活動として音楽療法をしていますのでまずその時に参加して頂いています。楽しみながら他利用者様との接点を持ってもらったり雰囲気を味わってもらったりしています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	お茶を入れて頂いて作法を教えてもらったり、野菜作りや花の名前など教えていただきながら生活しています。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	帰宅願望を和らげる方法を家族様とともに対応していますのでモードがひどくなると電話連絡を入れ外出の機会をお願いしています。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご希望なら泊まって頂いたりしています。行事に誘ったり、年賀状と暑中見舞いの絵手紙を書いてもらって家族様や親しい方に出しています。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所の方が訪ねて来られたりしやすいように心がけています。おふさ観音のそばに住んでおられた方は行くことを楽しみにされています。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	部屋に訪問して楽しく話されたりしています。一人がいい時は散歩などお誘いするが無理しないようにすすめています。おやつの後 折り紙などテーブルを囲んでされるようにスタッフが中に入ってやっています。利用者どうして誘い合っておふるに入られたりします。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院されたら面会に行ったり 在宅に帰られた方は折に触れ様子を伺ったりしています。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	散歩や食事のテーブルでの会話で思いを聞き出すようにして意向に添えるようにしています。「お買い物に行きたい」「毎日遠くまでゆっくりと歩きたい」「散歩に行つて来るよ」自分の意志が言える方が多く意向に添えていると思います。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にセンター方式でアセスメントをとりその人らしい生活に心がけています。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	できることはして頂いてねぎらいの言葉やお礼を必ず言うようにしています。日中の活動で夜間ゆっくり寝てもらうように生活リズムができるように取り組んでいます。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居されてスタッフで昼夜の生活リズムや排泄などをアセスメントして、ご本人のニーズに添ったケアプランを家族様に説明し同意でケアを進めています。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入院など状況の変化でプランの変更をしています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録に気づきを含めて記入しています。スタッフはまず気づき連絡ノートを見て個別の介護記録を見てから仕事に入っています。本人の状況の変化やメンタル面にすぐに対応できるように細かくノートに記載しています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	受診や通院 出かける時など必要に応じて支援しています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議で地域のボランティアを募集しました。安心してらせるよう警察をお願いに行きました。図書館や文化会館に出かけています。市のイベントで参加できそうな事は積極的に参加しています。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	近くの小規模多機能の事業所が行事に誘って下さるので参加しています。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議で定期的に会っているので相談など密に出来ています。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は家族様の支援があれば、継続していただけるように入居時説明しています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	医大やよろず病院の精神科と連携を図って経過や治療について相談しています。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	管理者が看護師で医療連携加算しています。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	サマリーの提供や家族様からの情報で今後の方向性などの説明もあり、主治医との話し合いに参加しています。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時の説明でターミナル期でも医療面が問題なければここでの入居を継続できます と説明しています。リスクの説明とこういう場合はどうしますか と予め意向を聞きかかりつけ医の説明もしてもらいながら方向性をお聞きしています。また家族様の意向はカンファレンスで伝えています。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	リスクも十分に説明した上で 家族様の意向であれば、できるだけ見てあげたいと思っています。主治医との連携で異常時の屯服なども出してもらっています。カンファレンスではリスクをどう回避するか話しています。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	在宅や特養に移る場合は家族様とどう説明するか他利用者に対する部分など提案しながらすすめています。必要な情報は提供しています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>入社時秘守義務についての誓約書もらっています。ケアカンファレンス時 関りかたや言葉掛けなど話し合っています。短期記憶がなく直後に「ごはん食べたかな」「散歩いきたいなあ」と言われるかたに対して言葉掛けを事前に書いてもらってカンファレンスでスタッフどうして本人の気持ちで考えてもらったりしています。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している</p>	<p>利用者が自己決定できるようにスタッフは言葉掛け(選んでもらう)をしています。献立は利用者聞きながら立てたりしています。スタッフとともに夕飯を作っています。部屋で洗濯物が干したい方は家族様と相談して干せるようにしたり 買い物支援しています。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>声かけして外に出たり 散歩に出たりしています。自由な生活を個々が決めています。部屋に帰ったり テレビを見てたり意志が言える方が多いので聞きながらすすめています。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>希望で美容院に行ってもらっています。おしゃれも支援しています。化粧も自分からされておられます。気染めも希望者にしています。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>調理を手伝ってもらたら 食べながら「〇〇さんが切ってくれた野菜だわ おいしいね」と話しています。片付けも自ら「しょうか」と言われ手伝ってもらっています。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>タバコを吸う方は(止める指導をしていますが)火の始末や時間など決めて吸ってもらっています。お酒は家族様の要望で毎日飲ませて欲しい方はこちらから部屋に持って行きます。イベント時(お正月夕涼み 敬老会)はビールやお酒を飲みたい方は飲んでもらってます。部屋でお茶 コーヒー等飲まれます。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	入居時より1週間排泄パターンをとり失禁しないような誘導時間を決めていきます。個室でトイレが部屋にあり ゆっくりと排泄してもらってます。失敗をトイレに放置していることが多々あります。さりげなく片付けるようにしています。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ゆったりと入浴にしてもらえるようにしています。日・木曜日は大風呂で他利用者と一緒に温泉気分を味わってもらってます。夕方にはいれるように支援しています。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	寝つきが悪い時は一緒にハーブティーを飲んだり お話しをして眠くなって寝てもらおうような関りをしています。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	裏の畑の収穫をしてもらったり、車で買い物にでたり散歩で買い物してもらったりしています。季節を感じてもらうのに 公園や安倍文殊院におやつを持って出かけたりしています。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は本人と家族様の希望で了解の上で持ってもらっています。もっていることで安心できる方もおられます。お買い物に出たら本人が支払うようにしています。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日朝・夕で外にでていますが、声かけて希望で外のベンチに座っています。散歩も朝は小学校やいろんなコースを歩いています。出来るだけ日中は玄関を開放しています。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ドライブで季節感を味わってもらったりしています。花見と もみじ(去年は奈良公園)はお弁当を持って出かけています。普段は近くの安倍文殊院におやつを持ってでかけたりしています。家族様へ外出や旅行などすすめたりしています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に電話をかけたりされています。年賀状 暑中見舞いは絵手紙を書いてもらっています。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	お茶を出したりしています。居間や部屋でゆっくりできるようにしています。面会時間は9時から20時ですが仕事の都合などで早く来られたり遅い時は電話して下さいと入居時に伝えています。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現状は身体拘束はありません。身体拘束 虐待 については勉強会や委員会活動でスタッフが監視するようにしています。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室は鍵はかけていません。本人が内鍵をかけられる方もおられます。玄関はできるだけ日中開放するようにしています。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	対面式の台所なので調理をしながらフローアの様子が見えます。夜中は1時間毎で安全 所在確認はしています。部屋のガラスは個々で目隠しなどされておられます。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬や洗剤 刃物等は保管場所を決めています。利用者には目につかないようにしています。包丁などはスタッフが横で開りながらしています。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	カンファレンスで事故につながりそうなリスクは個々に検討して対応できるようにしています。勉強会で緊急時の処置を理解しています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	法人の勉強会で救急法を消防署の協力で行っています。事業所ではマニュアル作成し1階事務所に貼っています。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は年2回行い 消防署に訓練計画を提出し協力のもと消火器を使ったり避難方法の確認やスタッフの不安を消防署の職員と話し合っています。運営推進会議で自治会の協力を依頼しています。南小学校を避難場所でスタッフや家族様は理解出来ています。非常時の水や食料は備蓄しています。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	すぐに散歩に出たがる利用者にはココセコムを身につけ住所連絡先名前など明記して持たせています。2回/日はスタッフと散歩をしますが、拘束しないので防ぎ様のない行方不明も説明しています。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	まず管理者に連絡し対応を検討している。その都度ノートに記入し対応を書いているのでスタッフはノートで確認しています。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	カンファレンスで副作用等説明しています。ファイルに薬の説明書を入れているので理解できています。受診後内容が変わったりした場合はその都度ノートに書いています。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食事の対応としてヨーグルトやイモ類きのこ類をよく食べています。散歩や利用者全員ゆっくりトイレに座ってもらっています。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後歯磨きを声かけ誘導しています。部屋でももらっています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事 水分量は介護記録に記入しています。夜間は部屋で好きに飲めるようにペットボトルに入れて渡しています。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルがあり、ノロウイルス流行時は法人で緊急にノロウイルス対策をしました。インフルエンザが流行時はうがい、励行 ウェルバスの手指消毒や来客のマスク着用などしたり 普段から床掃除は塩素をつかっています。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	感染環境委員で取り決めて まな板 布巾の除菌をしています。夜勤で冷蔵庫の賞味期限をチェックしています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	いつも玄関に花を飾ったり入りやすいようにしています。家族様が周囲の草を刈ったりしてもらっています。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節の花を飾っています。不快な臭いがないように常に心がけています。家庭的な雰囲気になるようにしています。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	あんま機や居間など好きな場所で過ごせるよう 移動がしやすいようにしています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族様に入居時に家として捉えてなじみの物を持ってきて欲しいと伝えています。写真や置物など置かれています。話のきっかけや思いを伺ったりしています。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	朝から空気の入替えを部屋の掃除で窓を開けておこなっています。フローに温度計を置いているので居室が温度が上がり過ぎないように注意しています。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーで手すりが壁面やトイレ 浴室についています。トイレはウォシュレットがついていてフローのトイレは車椅子対応になっています。IHの調理器具なので利用者に手伝ってもらえることもできます。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	表札に名前や目印が必要な方はつけています。「おてあらい」やウォシュレットの順番を書いたりしてわかるようにしています。日めくりカレンダーでリアリティオリエンテーションをしています。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関周りのプランターの水やりや種まきや裏の畑の収穫など利用者が楽しめるよういろいろな工夫を家族様が協力して下さっています。		

・サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者の
			利用者の2/3くらいの
			利用者の1/3くらいの
			ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	毎日ある
			数日に1回程度ある
			たまにある
			ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	ほぼ全ての家族と
			家族の2/3くらいと
			家族の1/3くらいと
			ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように
		○	数日に1回程度
			たまに
			ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	大いに増えている
			少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	ほぼ全ての職員が
			職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	ほぼ全ての家族等が
			家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

開設して3年半が経ちました。2階の入居者は出来る事がたくさん増え 毎日活動的な日課です。権利や尊厳を重んじてその人らしく生きられるように関わっています。意思決定の出来る方々なので 意向ですすめています。朝・夕の散歩や買い物支援 ドライブ その日の状況でちょっと散策に出かけたりしています。地域との交流は開設よりの桜井南小学校との定期的な交流会やH18年12月からの運営推進会議の開催 地元の買い物に出かけたりと定着してきました。音楽療法や習字など楽しみのひとつになっています。夏祭りには自治会の方や老人会 民生委員の方々などボランティアで盛大に行う事ができました。